

中国春季リーグ戦男子1部 Second stage 及び女子2部1日目結果報告

広島大学体育会バレーボール部同窓生の皆様

(同窓会連絡フォームへ登録いただいた皆様及び同窓会やコートの仲間等でご連絡いただいた皆様へお送りしています。)

いつも大変お世話になっております。

広島大学体育会バレーボール部です。

4/25、26に山口県ゼオンアリーナ周南において、中国春季リーグ戦男女1部 Second stage が開催されました。

また、4/25に同会場にて、中国春季リーグ戦女子2部1日目が開催されました。

広島大学の結果は、以下のとおりです。

(男子)

vs 広島工業大学

○3-0 (25-22、25-22、25-20)

vs 広島経済大学

●2-3 (18-25、25-22、25-20、25-27、11-15)

vs 東亜大学

●0-3 (13-25、20-25、20-25)

(女子)

vs 山陽学園大学

●1-2 (21-25、25-23、21-25)

vs 島根大学

●0-2 (21-25、14-25)

(中国学連 HP)

<https://chugoku.hiroshima-u.ac.jp/league-haru-top.html>

通算成績が1勝6敗となった男子は入替戦行きが決定的となりましたが、進もうとしている方向性は間違っておらず、経験を徐々に積んで出来ることが増えている段階ですので、1日ごと、1試合ごと、1セットごとに、収穫と課題を自分たち自身で洗い出すことが大切です。サーブカットは西川(2年・滋賀・虎姫高校)が入ったことで失点が少なくなり、サーブミスも全体としては減って、1週目のようにあっという間に連続失点する場面は随分と少

なくなりました。また、レフトの北村（2年・兵庫・須磨翔風高校）は、出場時間は少なかったものの、ミスをした後の切り替えが早くなり、高い位置でボールに触れる自分の強みを発揮できていたと思います。サイドアタッカー陣はチーム内の競争が激しくなっていますが、チームの信頼を勝ち取るためには、大きなプレーができるかどうかではなく、いかに小さなこと、細かなことを継続できるか、積み重ねられるかが問われています。バレーボールはラリーよりもボールアウトの時間、自分がボールに触らない時間の方が多岐競技ですので、その時間をチームにとっても自分にとってもプラスになるよう努めて欲しいと思います。

広島経済大学戦は、相手のモチベーションが上がらず、勝たせてもらえる状況の中で、相手に合わせることなく、一定数の得点とセットを取れたことには練習の成果を感じました。ただ、切り返しの攻撃ができる場面で2本目が上がらず、ラリーを繰り返す間に相手に良い形を作られてしまったことが何度もありました。現状、セッターの新谷（3年・広島城北高校）以外にトスを持っていける選手がおらず、せっかくのチャンスを生かせないところが結果につながっています。リーグ戦も2回戦に突入し、相手の攻撃をブロックに引っ掛けられる回数が増え、3本目を打ち切れる元気なスパイカーも揃っているのに、つなぎの2本目が不安定なのは勿体ない限りです。逆に言うと、2本目が安定すればそう簡単に連戦連敗するようなチームではありません。この2本目こそ、小さなこと、細かなことの積み重ねですので、時間をかけて体に覚え込ませていきましょう。

あと、もう一つ、力を注ぐべき場面では、いつも以上に力を注がないと、そもそもの実力差を埋めることはできません。経大戦で流れを完全に引き寄せられる場面でも、いつもと変わらないムード、声、振る舞いだったことは非常に残念でした。女子1部の上位を争っているチームが良い見本ですが、ここぞという場面でコート内もアップゾーンもチーム一丸となって攻めることができるからこそ、ちょっとしたことから試合展開が大きく変わることが度々あります。チーム全体のベクトルで攻め込まれると、個人の力では太刀打ちできませんが、今回のフルセットの敗戦は、間違いなく相手の個の力でひっくり返されたものです。それだけ広大がチーム一丸となっていない証拠ですので、これからチームを作っていくにあたっては、全員の力を結集させることにも注力して欲しいと思います。

続いて、女子はフルセットで山陽学園大学に敗れましたが、内容的にはストレート負けと言える一方的なものでした。昨秋下位の周南公立大学、岡山大学も初日から良い試合内容で、現状、広大が勝てる相手は2部におらず、このままでは全敗が濃厚です。新チームになり、冬を超えるとどのチームでも成長した選手が見られ、色々なことを乗り越えてきた努力を感じるものですが、今春、男女1部2部の計24チームの中で、唯一何一つ何も感じなかったのが広大女子でした。GW合宿のときにも言いましたが、見ていて圧倒的につまらなく、

一言で言うと「浅い」チームで、もちろん応援してもらえるようなチームではありません。指摘しなければいけないところ、確認しなければいけないところが「まあいいか」で流されすぎていて、危機感も緊張感もない軽いチームになっていたことに大変驚きました。

自分たちが楽しくやりたいだけなのであればこのままで構いませんが、もし勝ちたいと思っているのなら、時間をかけて、できていないところと一つ一つ向き合っていけないといけません。波風を立てずに今のチームが良くなる可能性はなく、自分自身に対しても、仲間に対しても、一歩も二歩も踏み込まないと前進することはありません。得点になったから良い、失点になったから悪い、ではなく、どうしてその状況でそう判断したのか、結果ではなくプロセスを評価するのは練習の基本中の基本で、成長するためには欠かせない、組織としては当たり前の約束事です。今はこれがない状況、ボールが落ちてから反省が始まる状況ですので、繰り返しになりますが、勝ちたいのであればチームとしても個人としても根本的なところから見直さなければいけません。

本気で変わるためには、残り3試合、全敗する勇気が必要です。勝ちに行くバレーボールをしても得られるものはありません。雰囲気が悪くなったとしても、周りから評価されなくても、ラリー中の一つ一つのプレーに誰がどう判断してその結果がどうなのかを指摘し続けることが一番の近道です。新1年生はプレー面でもメンタル面でも救世主と呼べる存在ですので、彼女たちが大きく成長できる環境が築かれることを願っています。

今週は、5/9、10に岡山大学体育館において、男女2部2日目、最終日が行われます。引き続きよろしくお願いたします。